

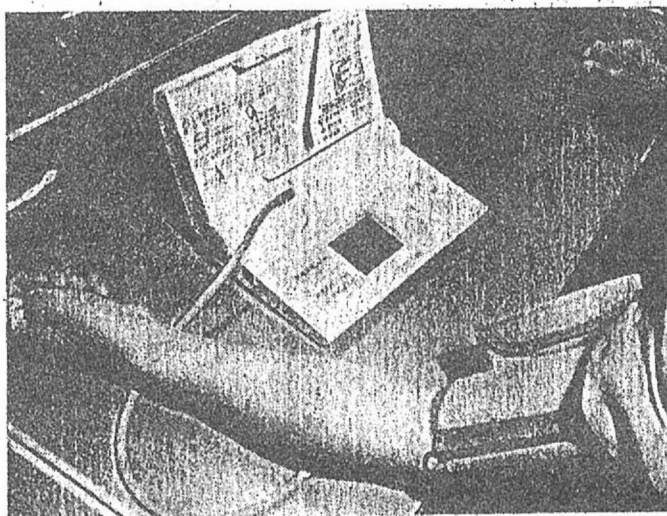
高血圧だと褐色細胞腫を疑え

褐色細胞腫(ていしやくせうぶしゅ)とは、この病名は恐怖を覚えさせる。がんを連想させるからだ。しかし、この病名はそう心配するまでもない。手術によって完治も可能だ。

手術で完治できる腫瘍

副腎に腫瘍ができるもの

この病気、簡単にいえる。主に副腎(よまに)交感神経節にも腫瘍(しゅよう)ができるものだ。腫瘍ができることカテコールアミン(アドレナリンやノレアド



レナリン)の分泌が過剰になってくる。その結果、血管が収縮し高血圧、発汗、ときどき、頭痛などの症状をもたらす。褐色細胞腫はそうした意味からもきちんと治療しなければならぬ。

困るのは高血圧になることだ。なにしろ、高血圧といえは諸悪の根源だ。高血圧そのものは「血圧が高い状態」のことで、病名ではない。しかし、血圧が高いと心臓病や脳卒中など、持続型だと最高血圧が20

0を越すようになってくる。(一般的にいうと血圧の正常値は最高血圧100、最低血圧80以下)。

若年性高血圧は褐色細胞腫の疑い。血圧が高いとき、とくに若年性高血圧の場合、褐色細胞腫を疑って見る必要がある。診断方法は簡単な尿や血液中のカテコールアミンを調べれば判定できるし、発作性にしてもカテコールアミンの代謝産物をチェックすればわかる。

さて、治療だ。目的は血圧をさげる点にある。だから、降圧剤を用いることも少なくない。しかし、これでは根本的な治療にはならない。やはり手術によって腫瘍を取り除くのが完全だ。これによって完治できる。

腹部の超音波検査などで腫瘍が発見され、はじめてこの病気だったことがわかったりした例もあるが、ともかく、高血圧であればその原因を調べるのが一番。そのためにも診断を受ける必要がある。若年性高血圧の場合は、褐色細胞腫を疑って見る必要がある。

入ってきた。このおそろしい名前だが、腫瘍をとって重クロム酸カリウムで染色すると褐色に染まるからだ。他に「101病」と呼ばれたりする。これは腫瘍のできる個所が圧倒的に副腎で交感神経節にできるケースは101くらいだからだ。腫瘍の90%は良性だから、さらに副腎での発生は90%は片側であることがらだといわれている。

薬用植物「タビボ」の樹皮

「南米産広葉樹タビボ」の抗がん作用についての基礎研究を続けていた金沢医科大学の平井圭一教授は、このほかに、タビボの樹皮から正常な細胞には無害でがん細胞だけ殺す抗がん物質の抽出することに成功したことを明らかにした。五月下旬に北大で開かれるがん転移学会、今秋の第五十二回日本がん学会総会で研究成果を発表するとしていている。



「これは、「タビボ」の樹皮から作った健康茶を製造販売しているタビボジャパン(本社・大阪)が

札幌市内で開いた「病気の闘いにおけるタビボの秘められた力」その基礎講演する平井教授

抗がん物質を抽出

金沢医科大学 平井教授 ががん転移学会で発表

平井教授によると、これまでの抗がん剤は強い抗がん作用から正常細胞にも作用して副作用などの影響が現れるが、今回タビボから抽出に成功した抗がん物質はがん細胞だけを抑制する。五月の研究発表は「がんの転移」の講演会

胞だけを選別して抑制を發揮するといふ。基礎研究では、ヒトの肺がん培養細胞と正常な細胞とに一定濃度の抽出液を加えた。この結果、濃度の高い抽出液でがん細胞は死滅(正常細胞は通常の細胞分裂が抑止された)、また濃度が半分のがん以外にもリニューマ

などに効果があると報告され、今後症例に基づいて研究解明が必要としてい